



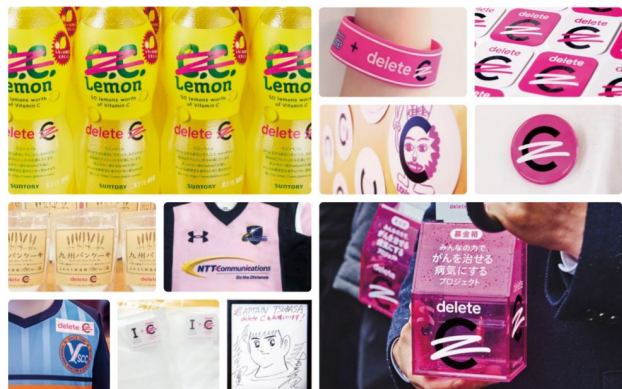
みんなの力で、がんを治せる病気にする プロジェクト

「がんを治せる病気になりたい」、そのシンプルで強い思いから、deleteCのすべては始まりました。毎年あらたに100万人以上ががんと診断され、毎年37万人もの人のがんによって命を落とし、生涯で2人に1人ががんになるといわれています。

こうした数字を目の前にすると、その問題の大きさに、足がすくむ気持ちになります。いったい自分になにができるのだろう、と。でも、私たちは絶対に「あきらめたくない」。

がんの治療研究は日々進んでいるとのこと。その研究のひとつひとつが、希望の種です。deleteCは、誰もが参加できて、みんなでがんの治療研究を応援していける仕組みをつくり、がん治療研究を応援し続けます。

deleteCとは

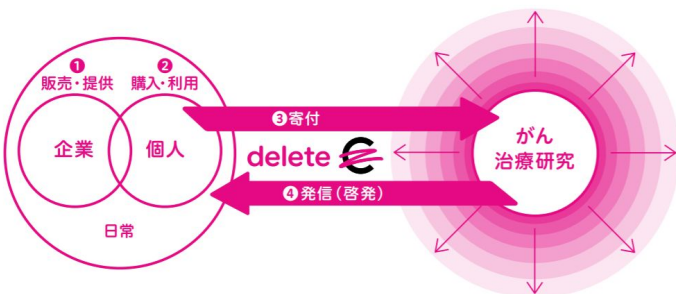


「誰もが参加できる」デザインアクションを通じて寄付・発信を行い、がん治療研究を応援する仕組み

個人、企業、組織や立場を越え、誰もがその思いを自由に意思表示するなど応援できる仕組みをつくり、1日でも早く「がんを治せる病気にする日」を手繰り寄せることに貢献します。

具体的には、プロジェクトに参加する企業・団体・自治体・個人が自身のブランドロゴや商品、またはサービス名から「C」の文字を消したり、deleteCのロゴやコンセプトカラーを使うなどし、オリジナル商品・サービスを制作・販売・提供します。購入金額の一部はdeleteCを通じて、医療者が推進するがん治療研究に寄付します。

尚、2019年10月にdeleteCコラボ商品の「C.C.レモン」のCを消した商品を発表し、2020年1月18日にはラグビートップリーグにて「deleteCマッチ」と題して、選手とともに募金を呼び掛けるなど、その取組みの輪は広がりがつあります。現在では、賛同企業50社、寄付者500名を超える方々に支持されています。



昨年末deleteCの初の寄付先となるがん治療研究を公募。選出したテーマの情報コンテンツを制作し、2020年2月1日に「deleteC 2020 -HOPE-」を開催。寄付実行とともに広くメディアに発信。

がん臨床試験の専門的知見を有する医師のほか、プロジェクト参加企業、deleteC医療リサーチチームといった多様な視点を持つメンバーで選考委員会を構成し、厳正なる審査のもと、寄付先を決定いたしました。選出したテーマの動画・プレゼン資料などの情報コンテンツを制作・発表し、deleteCが選定するメディアにて幅広く情報発信しています。



「がんを治せる病気にする日」を1日でも早く手繰り寄せたい。 想いのこもったがん治療研究を募集します。

deleteCでは、がんを治せる病気にするため、がん治療研究を推進する
医師・医学研究者に対する寄付、および啓発活動を行っています。
2019年度(2020年2月)は、4テーマを発表し、2テーマに各100万円を寄付しました。
今年度も1件100万円以上の寄付と啓発を通じて、がん治療研究を応援します。

募集テーマ

がんを治せる病気にすることを目指した、社会的インパクトのある臨床試験、および、そのような臨床試験を支える研究・取組みを募集します。ヒトを対象とした臨床試験、研究、人材育成などを対象とします。
がん種は問いません(基礎研究や動物を対象とした試験は対象外とします)。

応募必須条件

- ・医師または医学研究者であること
- ・他の医師・医学研究者の推薦が1人以上とりつけられていること
- ・啓発コンテンツ作成のための取材にご協力いただけること
- ・2021年1月30日(土)開催予定のdeleteCイベントにご参加いただけること
- ・1年後に向け、寄付対象テーマの進捗・成果と寄付金用途をご報告いただけること

募集期間・応募方法

募集期間: 2020年6月1日 0:00 ~ 2020年6月28日 24:00 厳守

応募方法: URLまたはQRコードより応募フォームにアクセスし、必要事項を入力して応募下さい。
応募フォームへはdeleteC HPよりアクセスいただけます。

<https://forms.gle/dHBgvQAMc6h4c81g6>



評価委員(あいうえお順・敬称略)

上野 直人 テキサス大学MDアンダーソンがんセンター・乳腺腫瘍内科部門教授
 大津 敦 国立研究開発法人国立がん研究センター東病院病院長
 桜井 なおみ 一般社団法人CSRプロジェクト 代表理事
 藤原 恵一 埼玉医科大学国際医療センター包括的がんセンター長・婦人科腫瘍科教授

※その他、協賛・寄付いただいたパートナー企業 deleteCメンバーを予定

スケジュール(予定)

募集期間: 2020年6月 1日 ~ 2020年6月28日

書類選考: 2020年6月29日 ~ 2020年9月上旬

Web選考: 2020年9月11日 ~ 2020年9月19日 (Webプレゼンを予定)

寄付対象者の決定: 2020年10月上旬

取材期間: 2020年10月中旬~2021年1月

寄付対象者の発表: 2021年1月30日 (deleteCイベントにて寄付対象者の登壇を予定)

寄付・啓発の実行: 2021年2月~



評価項目と観点

こちらは応募フォームで質問する内容です。

以下の内容に基づき、評価委員による書類選考Web面談をおこないます。

臨床試験

- ・研究者氏名
- ・研究者所属、職位
- ・タイトル

* 社会的インパクト

- ・対象疾患の患者数や生存期間延長など患者さんへの寄与、研究の新規性、独自性(200-250字)

* 科学的根拠の妥当性

- ・対象疾患と対象ステージ
- ・対象疾患・対象ステージの年間罹患数
- ・研究の背景と目的(200字)
- ・研究デザイン
(研究対象薬剤、比較薬剤、投与量、投与スケジュール)
- ・研究フェーズ(フェーズ1-3)
- ・目標症例数とその設定根拠
- ・主要評価項目/副次評価項目
- ・研究期間/症例登録期間
- ・研究機関名称及び研究責任者
- ・応募に際した試験責任者の了承の有無
- ・本研究における応募者の立場役割
- ・参加施設名または施設数

* 実行可能性

- ・倫理審査委員会の状況
- ・応募テーマを完遂するための実行計画、
実行計画の節目となるマイルストーン(症例登録開始見込み、
最終患者登録見込み、中間結果公表見込み、最終結果公表見込み時期)
- ・応募テーマを完遂するための資金計画金額・資金使途
(総額、物品費、薬剤費、旅費、人件費、謝金、統計解析費、
会議費など)
- ・資金総額に対する準備状況
- ・スポンサーの有無
- ・deleteCからの寄付100万円の資金使途
- ・応募テーマにおける実行及び完遂のための課題最大5つ)

* 応募者の情熱

- ・応募テーマを進めたい理由・想いや情熱(250字)
- ・がん治療・がん治療研究を進める上で、
どのようなことを大事にお仕事されているか、
なぜ医師になられたのが(250字)

* deleteCとして応援・啓発すべきテーマか

- ・応募テーマを社会に啓発する際のポイント・その理由(200字)

臨床試験を支える活動

- ・研究者氏名
- ・研究者所属、職位
- ・タイトル

* 社会的インパクト

- ・患者さんへの寄与、研究の新規性、独自性(200-250字)

* 科学的根拠の妥当性

- ・対象者
- ・取組みの背景と目的(200字)
- ・取組みの内容
- ・取組みの評価方法
- ・取組みの期間
- ・実施体制、実施機関名称、責任者
- ・応募に際した取組みの責任者の了承の有無
- ・取組みにおける応募者の立場役割

* 実行可能性

- ・倫理審査委員会の承認が必要な場合その状況
- ・取組みを完遂するための実行計画、
実行計画の節目となるマイルストーン
- ・取組みを完遂するための資金計画金額・資金使途
(総額、物品費、旅費、人件費、謝金、統計解析費、会議費など)
- ・資金総額に対する準備状況選択式)
- ・スポンサーの有無
- ・deleteCからの寄付100万円の資金使途
- ・取組みにおける実行及び完遂のための課題最大5つ)

* 応募者の情熱

- ・取組みを進めたい理由・想いや情熱(250字)
- ・がん治療・がん治療研究を進める上で、
どのようなことを大事にお仕事されているか、
なぜ医師になられたのが(250字)

* deleteCとして応援・啓発すべきテーマか

- ・取組みを社会に啓発する際のポイント・その理由(200字)

提案書類の様式及び作成上の注意

* 記載方法について *

- ①英数字は原則半角でご入力ください。
- ②回答方法や字数制限の指定が記載されている場合には、その内容通りにご回答をお願い致します。
- ③応募フォームは、期間内であれば回答の編集が可能となります。

* お願い * 書類選考に通過した際には、web選考が実施されます。

応募フォームの最後に web選考の希望日時をお伺いしておりますので、そちらへのご回答もお願いいたします。

2019年度の公募・寄付・啓発の実績

2020年2月1日、deleteC初の寄付先を発表するイベント「deleteC 2020 -HOPE-」を開催。2019年度は、抗がん剤の開発、治療法の開発、ゲノム医療など17テーマの応募がありました。寄付金を渡し、社会に広く啓発したい研究を「D&I」部門(ドネート&インフォーム部門)として2テーマを選出しました。さらに、寄付対象とはならなかったものの、広く社会に知ってもらいたい研究を「I」部門(インフォーム部門)」として2テーマを選出しました。

2019年度 D&I部門:2テーマを選出、各100万円を寄付・動画コンテンツを制作・啓発

「早期子宮頸がんに対するセンチネルリンパ節生検併用による侵襲の軽減とQOL改善を目指した標準治療法確立のための国際共同第Ⅲ相試験」

埼玉医科大学国際医療センター
婦人科腫瘍科 助教 藪野彰先生

【選出理由】 応募のあった17テーマの中で評価は第1位でした。早期子宮頸がんの患者さんの QOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上のために国際共同試験に参加して、標準治療法確立に挑戦されるという研究テーマで、大変重要であるということでの選出となりました。イベントでは、deleteCより「web面談で、先生とお話をさせてもらった時から、誠実で研究に対するまっすぐな想いに、僕達は共感しました」と人柄の素晴らしさも紹介されました。

「網羅的遺伝子解析による小児がんの治療法成績改善」

名古屋大学医学部附属病院ゲノム医療センター
病院講師 奥野友介先生

【選出理由】 小児がんは遺伝的要因が強く、乳幼児の死亡要因としても高い疾患ですが、きちんと診断されれば治療確率の高い特徴があります。遺伝子から調べるという医療の仕組みが成立していない中で、遺伝子検査を行うこの研究の意義は大変大きいということでの選出となりました。イベントでは、deleteCより「先生は、普段の講演や市民講座でも自分で描いたイラストを使い、分かりやすく人々に伝える工夫をしているということでした。こういう先生がいらっしやるということに感激しました」とありました。

2019年度 I部門:2テーマを選出、プレゼン資料作成支援により啓発

「がん領域における次世代のClinical Investigators 育成のためのワークショップ」

国立がん研究センター中央病院副院長・
消化管内科科長 朴成和先生

【選出理由】
がんの治療研究、臨床試験における若手医療者の人材育成は大変重要である一方で、広く社会には知られていない課題です。deleteCとして積極的に啓発、応援をしていきたいテーマと考え、選出しました。

「固形がん患者における初回治療前の包括的ゲノムプロファイル検査の有用性を評価する前向き観察研究」

国立がん研究センター中央病院副院長・
先端医療科科長 山本昇先生

【選出理由】
がんと診断されたらそのタイミングで遺伝子パネル検査を実施することの有用性を検証する内容で、社会的インパクトが非常に大きいとの総評となりました。昨年からのゲノム医療、遺伝子パネル検査が始まりdeleteCとしても啓発、応援したいという理由で選出しました。

-研究テーマの発信- deleteCが応援する研究を誰もが理解できる内容に翻訳し各種メディアで発信

●動画制作



●イントロダクションレポートデザイン

